

平成 27 年度 県立多摩高等学校 学校評価実施報告書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>< 教育課程・授業改善 > 生徒の学力向上を図り、確かな学力と幅広い教養を持つ人材を育成する教育課程を編成する。また授業内容を精選し、教授法を研究する。</p>	<p>(1) 国公立大学受験を主眼とした教育課程により、進学実績向上及び進路実現後に求められる汎用的な知識の獲得に向けた取組を推進する。 (2) 限られた授業時間の中で密度の高い授業を提供するために、各教科における教育内容を精選、教授法を研究し、職員間で共有する。</p>	<p>(1) 進学実績向上及び進路実現後に求められる汎用的な知識の獲得に向けた取組を推進することができたか。 (2) 各教科における教育内容の精選及び教授法の研究を行い、共有することができたか。共通テストの実施を推進できたか。</p>	<p>(1) ・学力向上・理数教育推進に向けて全職員で「多摩高を考える会」を2回実施し、本校における授業の質について共通理解を持った。 ・平成 28 年度国立教育政策研究所教育課程研究センター事業の教育課程研究指定校（理科）を申請し、指定を受けた。 (2) 平成 27 年度の共通テスト（一部共通も含む）率は全教科平均 70.4%であった。 （神奈川県平均 78.8%）</p>	<p>(1) 学力向上・理数教育推進・授業の質と量の充実等の取組に向けた推進組織をグループに位置づけ、当該グループを中心として課題解決を図る。 (2) 共通テスト（一部共通も含む）率 100%に向けて、更に授業手法の改善・開発・教材の共有化などのための教科内研修・全体研修を推進する。</p>	<p>(保護者) 多摩高校には学力に偏るのではなく、バランスのとれた人間教育を求めている。 (学校評議員) 学力だけでなく芸術方面、運動方面にポテンシャルの高い生徒をバランスを取りながら成長させる教育に期待している。 入学者選抜の選考基準を変更したことも評価している。</p>	<p>(学校評価) A (改善方策等) 今後とも、本校が行ってきたバランスのとれた人間形成を目指す教育を展開するとともに、新たな課題解決に向けて組織的な学校運営を図り、迅速に対応する。</p>
<p>< 生徒指導・支援 > 学校行事・部活動等を通じて、自他の多様性を尊重するとともに、自己管理能力の向上に努め、社会性を伸長する。</p>	<p>(1) 教科外活動と学習活動を両立させ、学校生活を充実させる。また、学校行事・部活動等を通じて、協調性と自主性の涵養を図り、自他を尊重する心を育む。 (2) マナーアップ運動、登下校指導を実施し、マナーと社会性ある行動を身につけさせる。 (3) 心身ともに健康的な学校生活の実現のために学校内外の教育相談の機能を活用、連携し、生徒を支援する。</p>	<p>(1) 生徒が、部活動・行事等と学習を両立し、また、自他を尊重し、豊かな経験を得ることができたか。 (2) マナーアップ運動等の取組により、生徒が恒常的に社会性のある行動がとれるようになったか。 (3) 支援教育校内連絡会の活用その他スクールカウンセラー等との連携を密にし、校内の支援体制を強化できたか。</p>	<p>(1) 学校全体の部活動の取組として平成 27 年度神奈川県部活動ドリム大賞アドバンス賞を受賞した。その他、吹奏楽部が教育委員会表彰、美術では高校美術展奨励賞を 3 名、内 1 名が全国大会へ推薦された。神奈川県チャレンジボランティアポスターコンクールでは最優秀賞を受賞した。部活動安全対策事業におけるスポーツインストラクターを活用し、延べ 369 名の生徒が指導を受け、自己の体調管理や怪我予防・トレーニング法に役立てた。この他、生徒会会計関連のシステムなどの生徒活動を支援し、改善させた。 (2) 交通安全指導により、交通事故は軽微なもの 1 件であった。 (H27. 4～H28. 2) (3) ・情報共有の手法を改善したことで支援教育校内連絡会が活性化した。 ・全職員に A E D 講習を実施 (7/7) し、生徒の安全確保のための体制を整えた。</p>	<p>(1) 部活動内での伝達講習会を推進するとともに、生徒自身が健康で安全な生活を送るための能力を身に付けられるよう講習等の機会を設定する。 (2) 自転車運転に係るヒヤリハット事例は多く報告されているので、更なる指導が必要である。特に自転車運転指導が必要であり、スケアードストレートなど実践型の講習を検討する。 (H28. 10. 6 に 1 学年に実施予定) (3) スクールカウンセラーの他、特別支援学校のコーディネーター、地区の S S W (スクールソーシャルワーカー) などの制度の周知を、職員の他保護者にも行い更に支援体制を強化する。 引き続き、生徒の安全確保のための体制を整える。</p>	<p>(保護者) 生徒の SNS の使用に大人が対応しきれっていない現状である。 自転車の交差点での乗り方や登下校時の歩き方など引き続き指導をお願いしたい。 (学校評議員) SNS の世界で傷つく生徒をフォローして欲しい。</p>	<p>(学校評価) A (改善方策等) 現在実施している情報リテラシーの研修（生徒向け・職員向け）を引き続き実施するとともに、今年度検討し 28 年度実施を決めたスケアードストレートの講習のような実践的な研修を更に取り入れることを検討していく。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><キャリア教育> 自主・自立の精神の涵養を図りながら、将来を見据えた進路実現を支援する。</p>	<p>(1) 将来、社会の中核を担うキャリアの形成を視野に、「総合的な学習の時間」を主軸にした学びの体系の中で、大学進学とその後の社会生活を意識させたキャリア教育の構築を図る。</p> <p>(2) 進路ニュースや保護者向けの説明会等を通じて生徒・保護者への情報発信を行う。また、進路説明会、キャリア講演会、シチズンシップ教育、インターンシップ等で身に付けさせたいねらいを明確にして計画的に実施する。特に選挙権年齢の引き下げの動向にも留意しつつ政治参加教育の取組の充実を図り、平成28年参議院議員選挙の機会を活用した模擬投票の実施に向けた準備を行う。</p> <p>(3) 面談（二者・三者面談）により、的確な生徒把握を行い個々の生徒の課題を明確にするとともに課題解決に向けたきめ細かなキャリアカウンセリングを行う。</p>	<p>(1) 「総合的な学習の時間」を主軸にした学びの体系の中で、効果的なキャリア教育が展開できたか。</p> <p>(2) キャリア教育に関する諸活動のねらいを明確にして計画的に実施することができたか。PTA学年総会等の機会に保護者向けにキャリア教育等の情報発信を行ったか。</p> <p>(3) 生徒一人ひとりに応じた具体的な資料等を利用し、きめ細かなキャリアカウンセリングが実施できたか。</p>	<p>(1) 「総合的な学習の時間」を中心に調べ学習や討論、ディベートなどの様々な活動をさせることでキャリア実践力を高める教育を実践できた。1学年では新たにポスターセッションを実施し、公開した。</p> <p>(2) 進路だよりを発行し生徒向けの情報発信を行った。また、PTA学年総会の機会を捉えて保護者向けの進路情報を発信した。特に2学年の保護者向けには「進路講演」と題し外部講師を招聘して説明会を実施し、151名の保護者が参加した。</p> <p>インターンシップの参加者も23名になり、2年連続で3倍増加した。</p> <p>(3) 教員がデータを分析して生徒にキャリアカウンセリングを実施できるように、研修会を実施した。また、夏季休業を利用して三者面談を実施し、保護者との連携を強化し、生徒一人ひとりのキャリア実現に向けたきめ細かく支援した。校外におけるキャリア教育研修への職員派遣と職員会議における伝達講習の実施により全職員のキャリア教育実践力の向上を図った。</p>	<p>(1) 課題発見、課題解決、協働作業、発表などの一連のキャリア能力を高めるための効果的なプログラムの開発を推進する。平成28年度からの理数教育推進指定を受け、総合的な学習の時間を活用した理数教育の取組を検討する。</p> <p>(2) 保護者向けの進路講演は好評であることから引き続き講師との打合せを綿密に行うなど、工夫を加えて開催する。進路実績についてデータを用いた分かりやすい情報提供を工夫する。</p> <p>(3) 生徒の進路資料室やSSR(自習室)の活用の利便性を向上させる。また、面談やキャリアカウンセリングに使用できるスペースを利用しやすいものに改善する。引き続き、キャリア教育、理数教育等の職員の教育力を向上させるため、研修や講習を積極的に行う。</p>	<p>(保護者) 高校時代に職業を決めるのではなく、個人の元となる感性を育むことが重要。いろいろな経験や体験を積ませて欲しい。</p> <p>(学校評議員) フレッシュャーズキャンプや社会人出張講義などの講師派遣には引き続き協力したい。</p>	<p>(学校評価) A (改善方策等) 生徒、保護者双方に引き続き丁寧な情報提供や支援を実施する。理数教育を始めとする職員の教育力を高めるための研修や講習を積極的にを行い、伝達講習を充実させ、職員全体の教育力の向上を図る。</p>
<p><地域等連携> 広く本校の教育活動を情報発信し、地域との連携を強める。本校の教育資源を地域に還元し、貢献する。</p>	<p>(1) ホームページ、学校説明会の内容を改善し、広報活動の充実を図る。</p> <p>(2) 「多摩高へ行こうの日」を計画的に設置し「開かれた学校づくり」を一層推進する。</p>	<p>(1) 閲覧者の視点に配慮しホームページの内容を充実することができたか。学校説明会を充実させることができたか。</p> <p>(2) 「多摩高へ行こうの日」の来校者から高評価を得られたか。</p>	<p>(1) 学校説明会及び公私立合同説明・相談会にのべ4,354人の参加があり、昨年より増加した。HPは月ごとの行事予定の更新の他、部活動の活動実績を適宜更新した。</p> <p>(2) 全4回実施した「多摩高へ行こうの日」にのべ107人、学校へ行こう週間は48人の参加があった。また、今年度から、夏季休業中の学校見学を一日4回実施に増加したことでのべ824人と増加した。</p>	<p>(1) アンケート要望を踏まえて、第二回学校説明会の時期を検討する。引き続き見学者の利便を考えた日程設定や時間設定を行う。</p> <p>(2) アンケート要望を踏まえ、12月の設定も検討する。(今年度の最終日は11月17日)</p>	<p>(学校評議員) 部活動単位での中学生への技術指導やイベント参加などの活動に感謝している。理数教育推進をされる中で、今後、中学生に理数系の学習指導のようなことをしていただけるとありがたい。</p>	<p>(学校評価) A (改善方策等) 生徒の地域社会への貢献活動を更に支援するとともに、生徒の活動状況や教育活動に係る情報を積極的に発信する。発信手段の1つとなるHPについては、更新頻度を上げる。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><地域等連携> 広く本校の教育活動を情報発信し、地域との連携を強める。本校の教育資源を地域に還元し、貢献する。</p>	<p>(3) 地域貢献や地域行事への生徒の積極的な参画を図るとともに、本校の教育資源を地域に提供し、貢献するために学校公開講座の開催等の新たな取組を検討する。</p> <p>(4) P T A の諸活動を活用し、本校学校行事等との協力を推進する。</p>	<p>(3) 地域連携の新たな取組を実施できたか。</p> <p>(4) P T A から理解と協力が得られたか。</p>	<p>(3) ・大師強歩を含めた地域清掃活動を全 9 回設定し、のべ1,600 人の生徒が参加した。地域貢献や地域行事への部活動生徒の参加は合唱部、吹奏楽部、ギターアンサンブル部でのべ10 回参加した。</p> <p>・講座開設した県立学校公開講座 11/15 「親子サッカークリニック」(10 名参加)を実施した。10/18 に設定した「親子でハーモニー」は希望者がなく成立しなかった。</p> <p>(4) 県立学校環境整備事業として 10/24 P T A 11 名の参加により、本校食堂屋外テーブル、ベンチの研磨ニス塗装仕上げ、食堂外壁トタン部分の錆止め及びペンキ塗装仕上げを実施した。その他、地域清掃活動への参加や、大師強歩のサポート、体育祭の氷配付などの本校諸行事にサポートしていただいた。</p>	<p>(3) 本校が実施している地域清掃活動の情報発信の方法や効果について検討、改善する。部活動が実施している貢献活動は評判が良かったので継続するよう支援する。学校公開講座については開講時期や開講内容、広報方法などを見直す。</p> <p>(4) 大師強歩の際の保護者による路上の見守りの手法など、保護者からの提言を受け、年毎に改善している。引き続き、意見交換等を重ね、より良い協力体制を築いていく。</p>		
<p><学校運営・学校管理> 学力向上進学重点教育実践校としての教育活動を展開するために組織的、効率的な校内体制の整備を図り、生徒一人ひとりの進路実現に向けた取組を推進する。</p>	<p>(1) 組織的な学校運営と業務の効率化を図るため、企画会議を中心に学校課題の整理及びスケジュール管理にあたる。</p> <p>(2) 日常の整理整頓や清掃活動の徹底、ゴミの分別や持ち帰りなどにより、学習環境を整備する。</p> <p>(3) 法令遵守及び事故不祥事防止を意識する職場をつくるために、研修会や職員間の声掛けなどを効果的に行う。</p> <p>(4) 学校評価システムの運用改善を図り、地域との協働による学校運営のあり方を研究する。</p>	<p>(1) スケジュール管理が円滑にできたか。学校課題の整理を、次年度の取組につなげることができたか。</p> <p>(2) 快適な学習環境を維持できたか。</p> <p>(3) 不祥事防止に向け、全職員が意識し取り組むことができたか。</p> <p>(4) 地域との協働のあり方を研究することができたか。</p>	<p>(1) 平成 27 年度に公表された県立高校改革実施計画への対応等のため、平成 28 年度からの校内推進体制を整えた。</p> <p>(2) 日常の清掃活動、大掃除の指導を強化した。学習机・椅子などを計画的に再配備している。一足制による校舎内の汚れ対策として導入した業者によるワックス清掃、トイレ清掃、窓ガラス清掃は継続する。</p> <p>(3) 外部講師による研修 3 回の他 21 回の事故防止会議を実施した。しかし、入学者選抜業務において採点誤りがあったことが再点検の結果、判明した。</p> <p>(4) 県立高校改革計画で全県立高校にコミュニティ・スクールの導入が発表されたが当面は先行実施校の状況を注視することとした。</p>	<p>(1) 喫緊の課題の整理と対応の後、一般的な業務分担への速やかな移行を検討する。</p> <p>(2) 一足制による校舎内の汚れ対策は引き続き検討が必要である。業者による清掃の適正な回数について検討する。</p> <p>(3) 二度と事故を起こさないために、引き続き事故防止会議を実施し、職員の注意を喚起し、事故不祥事のない、信頼される学校を目指す。</p> <p>(4) 平成 28 年 1 月の実施計画によれば本校は平成 28 年度導入ではないので、平成 28 年度から新たに始まる学校評価システムの理解を進め、今後、コミュニティ・スクールの導入に向けて研究する。</p>	<p>(学校評議員) 新規事業を導入した際には業務を精選し、職員が新たな業務を推進できるような環境を整えるよう、管理職の舵取りを期待したい。</p>	<p>(学校評価) C (改善方策等) 入選業務について、県教育委員会の検証結果も踏まえ、再発防止を図る。 グループ編製の改善後の検証を行い、更に業務の効率化を図る。 また、校内での人材育成を進め、教育の質と業務の質の向上を図る。</p>